

ひびき

教育目標：「なかよく かしこく たくましく」

三本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 R元年10月31日

【人を育てるのは人、人を傷つけるのも人】 校長 宮地 敏彦

毎日、各クラスのポスト係が、学級への配布物を受け取るために職員室に来て学級ポストを確認します。職員室の出入りをするとき、『失礼します！〇年〇組のの〇〇です。学級ポストを見に来ました。』（帰るときには『失礼しました！』）と職員室中に聞こえる大きな声を出します。学校における唯一の“大人の部屋”であり、“社会の入口”でもある職員室の出入りは、子どもにとって緊張の一瞬です。服装と姿勢を正し、美しい言葉で話す…いい練習です。そうすると、職員室にいる先生たちが『上手に挨拶するね。』『気持ちのいい挨拶やね。』『きれいな



<姿輝く1年生ポスト係>

言葉づかいね〜。』などと返してくれます。ほめられた子の嬉しそうな微笑みはキラキラと輝いています。見ていて心の和む、幸せな一場面です。

下の詩は、ずいぶん前に世界中で大ベストセラーになり、日本でも120万部以上売れた『子どもが育つ魔法の言葉』（ドロシー・ロー・ノルト著 石井千春訳）という本からの抜粋です。その一部をご紹介します。

《アメリカインディアンの教え》

- ◆けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる。
- ◆トゲトゲした家庭で育つと、子どもは乱暴になる。
- ◆不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる。
- ◆「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもはみじめな気持ちになる。
- ◆子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる。
- ◆親が他人をうらやんでばかりいると、子どもも人をうらやむようになる。
- ◆叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう。
- ◇励ましてあげれば、子どもは自信をもつようになる。
- ◇広い心で接すれば、キレル子にはならない。
- ◇ほめてあげれば、子どもは明るい子に育つ。
- ◇愛してあげれば、子どもは愛することを学ぶ
- ◇認めてあげれば、子どもは自分が好きになる。
- ◇見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる。
- ◇分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ。
- ◇親が正直であれば、子どもは正直であることの大切さを知る。
- ◇子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ。
- ◇和気あいあいとした家庭で育てば、

インディアン
うそつかない



子どもはこの世の中はいいところだと思えるようになる。

(◆◇印は後付けのものです)

共感できる内容です。子育ての不安や迷いを乗り越え、いつも家族が笑顔で、家庭が平和であってほしいと願うのは、国や時代が違っても変わることのない親心だと思います。私も高2の子（末娘）をもつ親です。子どもが中高生になれば、子育ても幼少期のように手はかかりませんが、悩んだり、自信をなくしたり、道を見失ったりするような試練の中で、子どもは言葉かけ（支援）を必要とします。「子は親の鏡」。無自覚の内に、子どもは親の姿から多くを学び、大きく親の影響を受けて育っていきます。親子が「共に育つ」という気持ちで、見守ることや寄り添うことを楽しんでいきたいと思っています。